

令和4年度酪農教育ファーム活動報告

令和5年3月29日
一般社団法人中央酪農会議
酪農教育ファーム推進委員会

I. 令和4年度事業の考え方

1. 酪農等を巡る情勢と中酪事業計画の基本的な考え方

- (1) コロナ禍の影響が続きつつも、先進国を中心に経済活動の再開が進み、世界経済は需要不足から一転して供給不足に陥っている。インバウンド需要の落ち込み、世界的な物流網の混乱や労働力不足などに起因する供給制約、資源価格の高止まりの長期化などにより、令和4年度は、引き続き酪農業も含めた我が国内経済への悪影響が懸念されている。
- (2) 我が国酪農においては、配合飼料価格、粗飼料価格が高騰するとともに、満度に粗飼料等が国内に入っていない状況にある。燃料・資材価格等も高騰し、酪農経営を圧迫している。
- (3) 生乳需給については、生産が好調に推移する一方で、コロナ禍で需要が低迷し、自然体では引き続き緩和傾向で推移する見込みである。また、需要期の需給ひっ迫、不需要期の緩和の格差はより大きくなっており、不需要期には処理不可能乳の発生も懸念されている。こうした状況下、乳製品在庫量、特に脱脂粉乳在庫量は、過去最高を更新すると見込まれている。
- (4) 農林水産省は、持続可能な食料システム構築に向け、令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定するとともに、酪農畜産分野に関して、同6月に「持続的な畜産物生産の在り方検討会の中間とりまとめ」を公表した。
- (5) こうしたことを踏まえ、本会議においては、引き続き、酪農家が『誇り』、『やりがい』、『夢』を持てる酪農産業の確立を目指し、令和4年度については適切な生乳取引を実現できる環境が整備されるよう、農林水産省による「みどりの食料システム戦略」等の動向も踏まえつつ、①需給の改善及び酪農の経営実態の啓発、②国内酪農業及び指定団体が行う生乳受託販売事業等への理解者・応援団の拡大等を行うこととなった。

2. 令和4年度酪農教育ファーム活動の考え方

- (1) 引き続き、現行の認証制度及び推進体制の下、「酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する」を目的に、認証を受けたファシリテーターが学校等と連携しながら、牧場や学校等を舞台に行う教育活動「酪農教育ファーム活動」を推進する。

- (2) 酪農教育ファーム活動の推進を通じて、日本酪農・生乳需給を巡る情勢、酪農や生乳の特性・重要性、酪農家の生き方、酪農における「持続可能な社会の実現」に向けた取り組み等について、生活者に直接伝えることで、日本酪農の理解者・応援団の拡大等に繋げる。
- (3) 現場での取り組みにおいては、飼養衛生管理基準の順守及び感染症防疫マニュアルに則った取り組みを徹底するとともに、本会議の作成した「新型コロナウイルスを想定した消費者交流活動に係る感染予防ガイドライン」を目安に、牧場毎に、牧場の状況に即した具体的な感染予防対策を実施する。
- (4) 各会議や研修会においては、ファシリテーターや関係者等に対し、日本酪農・生乳需給を巡る情勢や、指定団体の重要性、中央酪農会議の取り組み内容、一般消費者の目線に立った「畜舎環境の整備」や「農場で飼養している動物の管理」の重要性等について情報共有・啓発を行う。
- (5) 令和4年度の本会議が主催する酪農教育ファーム関連会議・研修会等の開催手法については、新型コロナの状況等を踏まえつつ、対面での開催も視野に検討する。
- (6) 地域推進委員会においては、当該地域における新型コロナの状況等も踏まえ、適切な対応を取りながら、現場での取り組みを推進する。

Ⅱ. 令和4年度活動報告

1. 推進委員会等

(1) 全国の酪農教育ファーム推進委員会の開催

■日時：令和5年3月29日（水）14:00～16:00（WEBを併用したハイブリッド形式）

<協議事項>

- 令和4年度酪農教育ファーム活動報告
- 令和5年度酪農教育ファーム活動計画

(2) 指定団体担当者会議の開催

■日時：令和5年3月9日（木）10:30～12:30（WEB会議）

<協議事項>

- 令和4年度酪農教育ファーム活動の進捗状況と今後の予定
- 令和5年度酪農教育ファーム活動計画

(3) 地域推進委員会への支援・出席

- 北海道(6/6・札幌市を起点としたハイブリッド形式(中酪はWEB参加))、九州(6/11・福岡市)、東北(6/23・WEB)、関東(3/27・WEB)の推進委員会に本会議から出席。

2. 認証制度の適切な運用

(1) 新規認証牧場・ファシリテーターの募集

- 指定生乳生産者団体(地域推進委員会)を通じて募集。(11月末締切)
- 指定団体による牧場現地審査の実施

(2) 認証審査委員会の開催

- 日時：令和4年12月26日(月)13:30~15:30(WEB会議)

- 委員名簿(敬称略)

氏名	所属・役職等
西田 敦子	全国退職女性校長会 顧問
安部 強	東北生乳販売農業協同組合連合会 代表理事専務
吉田 恭寛	吉田牧場 牧場のログハウス「ちちぶ路」(埼玉県)
山村 文之介	千葉県農業共済組合 北部家畜診療所 技術主査
寺田 繁	一般社団法人中央酪農会議 事務局長

- 指定団体等別申請者数

管轄	牧場認証	ファシリテーター 認証	未受講理由書 による延長	指定行事による 更新
ホクレン	1	10	8	0
東北	0	3	0	0
関東	0	11	6	0
北陸	1	3	0	0
東海	0	1	0	0
近畿	0	7	8	0
中国	1	4	0	0
四国	0	0	1	0
九州	1	4	13	0
中酪	0	0	0	0
計	4	43	36	0

■ファシリテーター認証申請者の属性

属性	人数
酪農家（経営者）	4
酪農家（経営者の家族）	9
従業員・社員	11
乳牛を飼養する教育的施設	11
乳牛を飼養する研究機関	1
教育関係者	2
団体職員	5
計	43

■審査結果

- ① 4 牧場・43 人が「仮認証」（一部「認証」）を取得
（留意事項への対応及び認証研修会の受講により「認証」となる）。
- ② スキルアップ研修会未受講理由書の提出により 36 人が「認証期間の延長（1 年間）」。

（3）研修会の開催

①認証研修会

■ねらい：酪農教育ファーム活動の目的と意義、酪農教育ファーム認証制度の仕組み、酪農教育ファーム活動における安全・衛生・防疫対策等を学ぶとともに、酪農教育ファームファシリテーターの役割を理解する。

■対象者：酪農教育ファームファシリテーター候補者（認証審査委員会で「仮認証」を取得した者）

■開催日・講師（敬称略）・受講者人数等：

No.	地域等	開催日	安全・衛生	ワークショップ	受講者人数
1	大阪市	2/9 木 ～10 金	千葉県農業共済組合 北部家畜診療所 技術主査 山村 文之助	NPO 法人 いぶり自然学校 代表理事 上田 融	14 人
2	札幌市	2/16 木 ～17 金	酪農学園大学獣医学群 講師 村田 亮		10 人
3	東京都	2/20 月 ～21 火	千葉県農業共済組合 北部家畜診療所 技術主査 山村 文之助		16 人
				合計	40 人

■プログラム

No.	開始	分	内容
【1日目】			
1	13:30	05	開会・事務連絡
2	13:35	25	主催者挨拶、最近の酪農を巡る情勢説明
3	14:00	15	酪農教育ファームの歩み（20周年DVD上映）
4	14:15	85	アイスブレイク
5	15:40	10	休憩
6	15:50	90	講演「酪農教育ファーム活動における安全・衛生・防疫対策の基準」
7	17:20	10	事務連絡
8	18:00	120	懇親会（参加任意）
【2日目】			
9	9:00	15	事務連絡等
10	9:15	180	ワークショップ 「酪農教育ファームファシリテーターの役割」
11	12:15	10	認証期限、更新方法、活動資材等の説明
12	12:25	05	事務連絡・アンケート記入・閉会

■アンケート結果

○5段階評価

項目	2/9~10 大阪	2/16~17 札幌	2/20~21 東京
アンケート回収数	14	10	16
①今回の研修会は満足できたか。	4.9	4.7	4.9
②酪農を巡る情勢は理解できたか	4.5	4.2	4.8
③酪農教育ファームの仕組みは理解できたか	4.7	4.5	4.9
④アイスブレイクで気持ちがほぐれ主体的に参加する 気持ちが高まったか	4.5	4.3	4.8
⑤安全・衛生・防疫対策は理解できたか	4.6	4.4	4.8
⑥ワークショップを通じてファシリテーターの役割が 理解できたか	4.5	4.4	4.9
⑧今後もこのようなWEB研修会に参加したいか。	4.5	4.4	5.0

○自由記述・抜粋

①最近の酪農を巡る情勢説明について

■酪農で大変なこと、問題になっていることを、改めて勉強できた（大阪）

■世間の酪農に対するイメージや、子牛の売却価格、エサ代の値上がりについて、見直すことができた（札幌）

■現在の乳価やエサ代等、ざっくりとしか分かっていなかったが、数値的に分かってよかった（東京）

②アイスブレイクについて

■アイスブレイクをすることで、休み時間の交流や、2日目の意見交換がスムーズに行動できて助かった（大阪）

■他牧場の方々との数少ない交流の場だったので、貴重な体験となった（札幌）

■はじめは、緊張で固くなっていたが、楽しく参加する気持ちになれた（東京）

③安全・衛生・防疫対策について

■飼養衛生管理基準をかみ砕いて説明してくれてとても分かりやすかった（大阪）

■牧場の環境づくりのために知らなかったこともあれば、分かっているけど実用できていないこと、もっと気を付けないといけないことなど、やること、やれることはまだまだたくさんある。牧場の人、みんなで受講したかった（札幌）

■来る人に対しても、牧場の牛に対しても考えなくてはいけないことが良くわかった（東京）

④ワークショップについて

■体験した事のない時間だったが、ファシリテーターとしての役割、考え方を深めることができた（大阪）

■この研修で一番楽しく、今後の自分のためになる内容だった（札幌）

■参加型で緊張もほぐれた。またファシリテーターとは何かを体験して学ぶことができて、今後のモチベーションが上がった（東京）

⑤その他

■同じような思いを持った人たちとたくさん話ができて良かった（大阪）

■みんなが参加できる勉強会で良かった（札幌）

■他牧場との意見交流で詳しく知ることができたり、専門的な知識を学ぶことができたことが良かった（東京）

■総括

①3年ぶりに、対面で開催することができた。

②書類審査を通過した43名中、40名が受講し認証を取得することができた。

③一方で、3名は「日程の都合がつかない」「コロナで外出を控えたい」等で受講できなかった。次年度以降は、開催日程を年度の早い段階で決定し、案内したい。

④アンケート結果から、認証研修会のねらいが概ね達成できたことが伺えた。

②スキルアップ研修会

■目的：

- ①酪農教育ファーム活動の基本である「安全・衛生・防疫対策」について再確認する。
- ②ワークショップを通じて、ファシリテーションスキルを向上させる。
- ③経験年数や年齢、地域や活動内容等が異なる参加者同士の情報交換等を通じて、自らの酪農教育ファーム活動を客観的に振り返り、これまでの成果と課題、課題解決の方法等に気づく。
- ④研修会を通して気づいたことを自分の酪農体験プログラムに反映させ、活動の目的である「酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する」ことに近づけていく。
- ⑤最近の酪農を巡る情勢について、情報と問題意識の共有を図る。

■対象者：酪農教育ファームファシリテーター

■開催日・講師・受講者人数等：

No.	地域等	開催日	安全・衛生	ワークショップ	受講者人数
1	大阪市	9/13 火	愛知県学校給食牛乳協会 事務局長 木島 秀雄	ひとつまみの希望 主宰 石川 世太	9人
2	東京都 ①	9/29 木	千葉県農業共済組合 北部家畜診療所 技術主査 山村 文之助		7人
3	福岡市	10/14 金	愛知県学校給食牛乳協会 事務局長 木島 秀雄		8人
4	東京都 ②	10/20 木	千葉県農業共済組合 北部家畜診療所 技術主査 山村 文之助	NPO 法人 いぶり自然学校 代表理事 上田 融	10人
5	WEB①	11/10 木	酪農学園大学獣医学群		32人
6	WEB②	11/17 木	講師 村田 亮		28人
7	札幌市	11/29 火	千葉県農業共済組合 北部家畜診療所 技術主査 山村 文之助		11人
				合計	105人

■プログラム

No.	開始	分	内容
1	11:00	05	開会・事務連絡
2	11:05	25	主催者挨拶、最近の酪農を巡る情勢説明
3	11:30	60	講演「酪農教育ファーム活動における安全・衛生・防疫対策」
4	12:30	45	休憩（各自昼食）
5	13:45	180	ワークショップ 参加者の主体性を重視した体験型の研修（参加者同士の話し合い等を含む）を通じて、①「酪農教育ファームファシリテーター」の役割や重要性を再確認し、②自らの酪農教育ファーム活動を客観的に振り返り、これまでの成果と課題、課題解決の方法等に気づき、③ファシリテーションスキルの向上を図る内容。
6	16:15	15	事務連絡
	16:30		閉会

■アンケート結果

○5段階評価

	9/13 大阪	9/29 東京①	10/14 福岡	10/20 東京②	11/10 WEB①	11/17 WEB②	11/29 札幌
<参考>参加者数	9	7	8	10	32	28	11
アンケート回収数	9	7	8	10	31	22	11
①今回の研修会は満足できたか	4.7	4.9	4.9	4.8	4.7	4.8	4.7
②安全・衛生・防疫対策は理解できたか	4.6 木島	4.4 山村	4.4 木島	4.6 山村	4.5 村田	4.6 村田	4.5 山村
③ワークショップで気づきはあったか	4.6 石川	4.4 石川	4.6 石川	4.8 上田	4.8 上田	4.8 上田	4.8 上田
④今日学んだことを自分のプログラムに反映できそうか	4.6	4.9	4.6	4.8	4.8	4.8	4.7
⑤他の受講者とコミュニケーションはとれたか	4.2	4.3	4.4	4.4	4.5	4.5	4.7
⑥今後もこのようなWEB研修会に参加したいか	4.7	4.1	4.7	4.4	4.1	4.5	4.8

○自由記述（抜粋）

①安全・衛生・防疫対策について

■職場での勉強会や説明に比べると、とても分かりやすかった（WEB①）

■出来るところから変えていこうと思い、非常に参考になった（札幌）

②ワークショップについて

- これからも活動を続けようと強く思った（大阪）
- ファシリテーターについて悩んでいたけど、やっぱりやりたい事はあることに気づいた（福岡）
- 定期的に学びがあるのは助かる（東京②）
- ファシリテーターの役割について忘れていたことを思い出した（WEB①）

③他の受講者とのコミュニケーションについて

- いい出会いもあり、励みになった（福岡）
- 他の受講者の方ともコミュニケーションできたら良かったかなと思った（WEB①）
- やはり同じ会場で皆さんとお会いしたかった（WEB②）

④その他

- WEBでの参加を考えていたが、対面でのスキルアップ研修会は、とてもとても充実した時間となった（東京①）
- 今までも研修会を受けてきたが、今日のワークショップはとても参考になり、良かった（福岡）
- 研修会は、毎回参加するまで億劫に感じるが、それでも毎回終わった後の充実感や前向きな気持ちに誘導されていくため、感謝している（WEB②）

■総括

<成果等>

- ①3年ぶりに対面で開催することができた。
- ②合計105名が参加、認証を更新することができた。
- ③アンケート結果から、スキルアップ研修会の目的が概ね達成できたことが伺えた。
- ④アンケート結果では、対面とWEBに大きな差はない。（ただし、対面参加者からは「(迷ったけれど)対面で参加して良かった」という声も多かった）
- ⑤アンケート結果では、安全衛生、ワークショップともに、講師の違いによる大きな差はない。

<課題等>

- ①講師等の調整に時間を要し、開催日程が決まるのが遅れた。（8/4に案内）
⇒■案内が遅くなったことから、休みが取れない、別の予定と重なっている等で受講できない人も多かった。
- ②昨年度、WEBに対応できない等の理由で対面開催を望む声が多かったため、対面開催を多くしたが、結果として対面希望者は想定よりかなり少なかった。一方で、WEB希望者は想定より多く、定員を35名としていたところ、キャンセル待ちが出るほどとなった。

- ⇒■コロナ禍で外出を控えている人が一定数いた。
- WEBが浸透し、対面よりWEBを選ぶ人が増えた。(休みを取らなくていい、移動時間がかからない、交通費がかからない、コロナに罹るリスクがない、等)
 - 特に対面開催で、費用対効果が低い。
- ③特にWEB参加者で、直前・当日のキャンセルが多発。
- ⇒■本人や家族がコロナに罹った(またその疑い)という人が数名。
- WEBだから休みやすい？(キャンセル料が掛からない、迷惑をかける自覚がない、等)。
- ④一方で、WEB参加ができない人は、未だ一定数いる。
- ⇒■機材やネット環境がない。
- (本人が)WEBが使えない、使う気がない。
- ⑤そもそも対面であっても、WEBであっても、参加できない(しない=更新しない)人も多かったのでは？
- ⇒■コロナ禍？ 高齢化(でも続けたい)？
- 酪農経営の厳しさ？(研修を受ける余裕、活動をやる余裕がない)
 - 3年に1回の受講が大変？(酪農家が外に出ること、休みを取ることのハードルが高い？)

(4) 年度末の認証数(見込み)

①認証牧場数(見込み)

	R3年度末 (R4当初) ①	増加 ②	減少		R4年度末 (R5当初) ①+②-③	前年差	
			③=a+b	取消申請 a			失効 b
ホクレン	51	1	5	4	1	47	-4
東北	27	1	5	2	3	23	-4
関東	69	0	3	1	2	66	-3
北陸	11	2	1	0	1	12	1
東海	29	0	2	1	1	27	-2
近畿	15	0	0	0	0	15	0
中国	20	1	1	0	1	20	0
四国	5	0	0	0	0	5	0
九州	33	1	2	1	1	32	-1
沖縄	1	0	0	0	0	1	0
計	261	6	19	9	10	248	-13

②ファシリテーター数（見込み）

	R3 年度末 (R4 当初) ①	増加 ②	減少		管轄 変更 ④	R4 年度末 (R5 当初) ①+②-③	前年差		
			③=a+b	取消 申請 a				失効 b	うち、理由書 による 1 年延長
ホクレン	94	10	11	9	2	-1	92	8	-2
東北	51	3	8	1	7	0	46	0	-5
関東	141	9	17	1	16	2	135	6	-6
北陸	27	3	3	0	3	0	27	0	0
東海	54	1	4	1	3	0	51	0	-3
近畿	56	7	7	1	6	-1	55	8	-1
中国	44	4	7	0	7	0	41	0	-3
四国	12	0	2	0	2	0	10	1	-2
九州	60	3	6	0	6	0	57	13	-3
中酪	1	0	0	0	0	0	1	0	0
計	540	40	65	13	52	0	515	36	-25

(5) 活動実態調査の実施

- 上期分（4～9月分）調査結果は、別紙①の通り。
- 下期分（10月～3月）調査は、令和5年4月に調査依頼文書を発出予定。

(6) 認証牧場・ファシリテーターの管理

(7) 地域推進委員会による牧場現地検査・審査

- 地域推進委員会において、牧場現地検査（既認証牧場への3年に1回の検査）及び牧場現地審査（新規認証取得のための審査）を実施。

3. 実践者及び理解者の拡大・普及

(1) 地域推進委員会における認証取得への取り組み・PR

(2) 酪農家等関係者への普及

①業界紙（誌）への記事広告掲載

■「全酪新報」9/20号（別紙②）

- カラー15段+5段（記事10段+5段、広告5段）
- 新型コロナによる制約が解除されつつある中、改めて、「直接体験」による酪農教育ファーム活動の重要性や、厳しい酪農情勢における酪農教育ファーム活動の役割と価値等をテーマに、酪農家（北海道・iふぁーむ岩谷牧場）、教育関係者（日本酪農教育ファーム研究会顧問・國分重隆氏）、専門家（新潟食料農業大学准教授・青山浩子氏）へのインタビュー記事、新規認証募集広告。

■「DAIRYMAN」10月号（別紙③）

- A4判カラー4ページ
- 令和3年度に認証を取得した牧場（栃木県・小針牧場）における活動の取材記事、新規認証募集広告。

②酪農家等関係者が集まる研修会・イベント等におけるPR

- 各種研修会・イベント等において、酪農教育ファーム紹介チラシの配布等を実施。

(3) 教育関係者への普及

①実践研究集会

■日時：令和4年10月23日（日）13:00～16:00

■共催：日本酪農教育ファーム研究会

■対象：日本酪農教育ファーム研究会会員及びファシリテーター等

■目的：酪農教育ファームファシリテーター及び教育関係者がオンライン上で一堂に会し、最近の酪農を巡る情勢について学ぶとともに、酪農教育ファーム活動に関する実践発表や意見・情報交換等を行う。これを通じて、厳しい状況下だからこそ重要性を増す酪農教育ファーム活動の価値と役割を確認するとともに、教育関係者への普及と実践者の拡大を図る。

■プログラム（敬称略）

開始時間	内容
13:00	開会・事務連絡
13:05	挨拶
13:15	<p>■講演「最近の酪農をめぐる情勢について」 （一社）中央酪農会議 事務局長 寺田 繁</p> <p>■発表「私の牧場の状況について」 酪農家 i-ふぁーむ岩谷牧場（北海道） 岩谷 史人 株式会社 清水牧場（愛知県） 清水 一将</p>
13:55	<p>■実践発表 墨田区立第三寺島小学校 4年2組担任 山口 覚（主幹教諭） 4年1組担任 松井 明美（主任教諭） 3年1組担任 関 啓隼（教諭）</p>
14:25	休憩
14:35	■グループディスカッション
15:55	まとめ、事務連絡
16:00	閉会

■参加者：61名（ファシリテーター14名、研究会会員14名、その他教育関係者18名、指定団体等5名、報道4名、来賓・事務局6名）

■アンケート結果

○5段階評価（平均）

質問項目	評価
今回の研修会に満足したか	4.9
「最近の酪農をめぐる情勢について」は参考になったか	4.8
「私の牧場の状況について」は参考になったか	4.9
墨田区立第三寺島小学校の実践発表は参考になったか	4.8
グループディスカッションは参考になったか	4.9
またこのような研修会に参加したいか	4.8

○自由記述（抜粋）

- 学校関係者との繋がりや、酪農家にとってとても大切で重要。（ファシリテーター）
- できればリアル開催が良いが、リモート開催ゆえに遠方からでも気軽に参加できる。今後、リアル開催が可能な状況となってもハイブリッド方式を取り入れてほしい。（ファシリテーター）

- 酪農家の現場の話は衝撃的だった。話を聞かせていただき感謝している。(研究会会員)
- 酪農家を含む違う業種の方とグループを作っていたので、いつも、視野を広くするきっかけになっている。(研究会会員)
- ニュースでは聞いていたが、酪農家の苦悩を直接聞くことができ、大変なことを実感した。消費者として何ができるか、また、将来を担う子供たちにどのように興味を持ってもらうかを考える機会になった。(その他教育関係者)

②動画「牛乳ってスゴイ！」の周知、活用の促進

- 令和3年度に作成した動画「牛乳ってこんなにスゴイ！」について、HPに掲載するとともに、各種研修会や感動通信等で周知・活用の促進を図った。

4. 安全・衛生・防疫対策

(1) ホームページ等を活用した情報提供

- HP・フェイスブックを通じた情報及び資材（手洗い大作戦、各種マニュアル等）の提供
- 機関誌「感動通信」を通じた情報の提供

(2) 各種研修会における講演の実施

- スキルアップ研修会及び認証研修会における講演

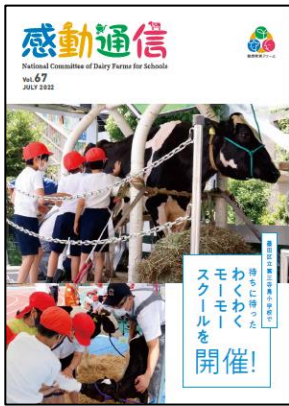
(3) 一般消費者の目線に立った「畜舎環境の整備」や「飼養管理」の重要性に関するWEB研修会の開催

- 今年度実施なし
- 今後、農林水産省において、家畜のアニマルウェルフェアに関する新たな指針（「畜種ごとの飼養管理に関する技術的な指針」）が示される予定。研修会については、指針の周知と併せて、来年度に実施することとする。

5. 広報

(1) 機関誌「感動通信」の発行

- 体裁：A4判・カラー12ページ
- vol.67
- 令和4年7月1日（金）発行
- 墨田区立第三寺島小学校における「わくわくモーモースクール」の取組、あいつべこ暮らし展（福島県・福田牧場の取組）、等。



■ vol. 68

○令和4年10月1日（土）発行

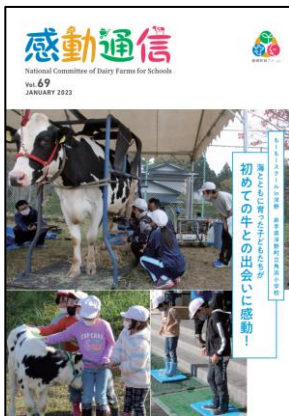
○認証牧場・ファーム山下（鳥取県）の活動紹介、宮城県立加美農業高等学校におけるジュニアファシリテーター研修会、等。



■ vol. 69

○令和5年1月1日（日）発行

○東日本大震災復興支援モーモースクール（岩手県洋野町立角浜小学校）の取組、酪農教育ファームスキルアップ研修会レポート、等。



■vol. 70

○令和5年3月31日（金）発行

○認証牧場・安達牧場（北海道）における地域と連携した中学校への出前授業の取り組み、ファシリテーター・小川文夫氏インタビュー記事（北海道）、認証研修会レポート、等。

(2) ホームページ及び facebook ページによる情報発信

■ホームページ (<https://www.dairy.co.jp/edf/>)

- 酪農教育ファームの概要、事例、調査報告、各種データ等の掲載
- 各種会議や研修会等の開催案内・プレスリリース、開催結果の掲載
- 活動支援ツール及び情報誌の紹介、関係者等からの申込受付



←ホームページはこちら

■facebook (<https://www.facebook.com/rakunoukyouikufarm/>)

- 酪農教育ファームホームページと連動した内容
- その他酪農教育ファームに関する各種情報



←Facebookはこちら

6. 制作物

(1) 既存の教材等の増刷・配布

■「酪農教育ファーム紹介チラシ」の更新



▼チラシデータはこちら



(2) 各種研修会用ツール及び新規認証者へのツールの制作

■新規認証書・認証カードの制作・配布

7. 他団体との連携

(1) 地域交流牧場全国連絡会

- ①各種会議における酪農教育ファーム事業の説明
- ②各種会議・研修会の相互協力

(2) 日本酪農教育ファーム研究会

- ①実践研究集会の共催 (10/23)
- ②定期総会への出席 (6/25)
- ③例会への出席 (2/26)
- ④役員会への出席 (4/24・5/22・7/30・8/22・1/7)

(3) 全国農業協同組合連合会、全国酪農業協同組合連合会、(公社) 中央畜産会、
(一社) Jミルク・乳の学術連合
必要に応じ情報交換等を実施。

(4) 農林水産省

「食育推進評価専門委員会」への委員派遣 (千葉県・加茂牧場・加茂太郎氏)

以上